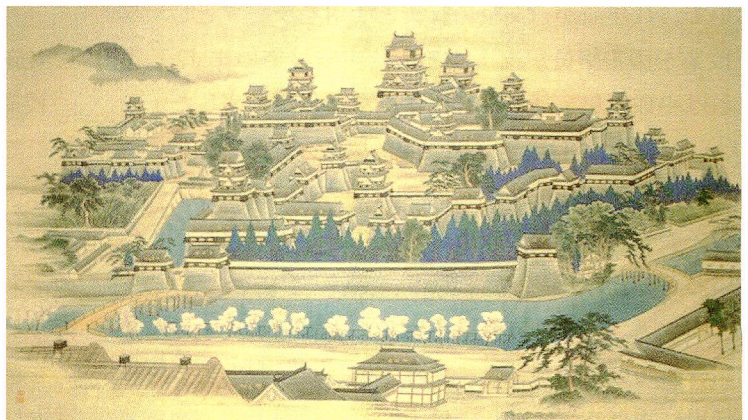




Kumamoto University Library Bulletin, Vol.26, No.2, Apr. 2001

- 図書館による情報リテラシー教育支援
- ハーン先生の熊本
- 電動集密書架の第二期工事が終了しました
- 細川佳代子さん講演会「ボランティアの私」



永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託「熊本城之圖」

桜の季節の熊本城を、藩主の邸宅であった花畑屋敷の方から見た図。
花畑（はなばた）屋敷は、現在の熊本市花畑町にありました。

図書館による情報リテラシー教育支援

- 総合科目授業支援レポート -

平山忠一・図書館授業支援スタッフ

「情報メディアとネットワークの活用」と題した授業が平成12年度前期の教養科目（総合科目）に開講されました。附属図書館と総合情報処理センター（以下、「センター」という）の協力によるものです。開講に至った経緯、成果などについて、この授業の企画と演習支援にあたった図書館の立場から報告します。

<開講に向けて>

近年、学術情報メディアの電子化とネットワーク環境の進展はめざましく、大学図書館にとって、情報アクセス環境の整備と並んで利用者自らがパソコンを使いこなすネットワーク上の各種情報を収集し活用する技術（情報リテラシー）の教育が大変重要な機能になっています。

附属図書館では、平成11年からその課題に本格的に取り組み、4月に実施している「新入生ガイダンス」でコンピュータによる目録検索(OPAC)や雑誌記事の利用方法などについて紹介し、さらに秋に行っている「中級ガイダンス」で、レポートや卒業論文のための情報収集方法の指導などもプログラムとして取り入れるようにしました。

一方、京都大学をはじめとしていくつかの大学において、数年前から文献の収集と活用をテーマとした授業を図書館員が支援する形で実施しています。これは平成8年7月29日に学術審議会が公表した「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について（建議）」において、図書館による情報リテラシー教育への支援が求められたことが背景になっているものと考えられます。

本学でも、情報リテラシー教育の授業はいくつか開講されていますが、学術文献（情報）の収集やその活用に重点を置いたものはみられません。附属図書館では、今回、総合科目にこのような授業が開講されることは、学生の自己学習と情報活用の場としての図書館利用をさらに促進し、熊本大学が高度な

教育研究を遂行していくための情報基盤として図書館（機能）を強化するチャンスであると考え、全面的に支援することになりました。

<授業の概要>

授業の目標は次のように設定されました。

- ・大学図書館や情報メディアに親しむことで、自ら学び新たな知的創造を可能とする。
- ・文系・理系を問わず広く卒業研究やレポート作成に必要な知識を身につける。
- ・情報化が進展する実社会でも役立つ実践的知識の習得。

講義では、多様化した各種メディアの特質とそこに含まれる情報の生産および流通プロセス等を概観し、その上でネットワークを利用した情報収集とその活用法やインターネット上における情報倫理などについて学ぶものとしました。演習では、学術情報を始めとする各種情報の検索実習を通じて、講義内容を確認するとともに多様な情報資源へのアクセス方法を習得することにしました。授業の全体構成はおおまかに、各種メディアの特徴と検索入門、ネットワークを利用した情報収集・レポート作成、インターネット利用上の情報倫理となっています。

<実施>

授業の性格上、情報機器等の利用は必須条件です。そこで、教室は原則としてセンターを使用することにし、参考資料の解説・実習などは中央図書館で実施することにしました。このため、センター端末室の端末台数（一室70台）に合わせた受講者制限を行うようにしました。最終的には受講希望者が90名を超えたため、文系の新生を優先して70名を選抜しました。

多くの受講生に対して演習を効果的に行うためには支援体制が重要です。オーガナイザー及び分担教官（計6名）の外に、図書館から、授業・演習サポート4

名、実習アシスト4名、それらを調整するコーディネータ1名が参加しました。さらにTA4名を加え、全体で13名の支援体制が組まれました。また、講師と受講生との双方向性をもった授業を実施することもこの授業の目標のひとつであると考え、授業用のホームページ(*)を設置しました。教官と図書館スタッフの連携のもとでシラバス、テキスト、講師HPへのリンク、授業の参考書情報、受講生からの質問、レポート等を公開しました。

<受講生の評価>

各回の授業終了後及び最終回にアンケート（授業評価）を実施しました。紙数の関係で特徴的な点のみあげておきます。

- ・受講の動機について、78.7%が「シラバスをみて今後役立つ内容だ」と思ったとし、86.9%が「パソコンを使いこなせるようになる」ことを期待していた。
- ・受講後の感想では、50.8%が「受講していない人に対して差がついた」と考え、67.2%が「卒業論文などで役立つ」と思ったと回答。
- ・演習のサポート（人数、対応の親切さ、的確さ）については、肯定的な評価が多く、「親切さ」では73.8%が「良い」と回答。
- ・授業のホームページについては、「見ていた」とする回答は44.3%にとどまり、レポートをホームページに掲載することについて、「良い」とするのが29.5%、「嫌だ」とするのが31.1%あった。また、「他の授業でも情報公開して欲しい」が27.9%あった。
- ・パソコン所持については、「自分のパソコンを持っている」が57.4%で、さらに「持っていない」のうち「購入予定がある」が88.5%あった（購入するつもりなし→3人）。
- ・図書館の利用に関しては、「データベースや参考図書を使って調べるようになった」が58.3%、「利用する機会が多くなった」が45.8%あった。

<課題>

図書館からみた最大の課題は「施設・設備（資料を含む）」の問題です。参考図書や館内のパソコンが足りなくて授業で取りあげた課題（問題）を十分に調べることができない状況もありました。また、館

内で70名の授業を実施する部屋がなく、狭い部屋で気分が悪くなった学生も出ました。今回の授業を通じて、中央図書館の設備の貧弱さを痛感させられました。

この授業の受講生は70名ですから、新入生の一部が受講したに過ぎません。したがって今後は、図書館ガイダンスの充実もますます重要になります。また、それとは別に「通常の授業」のなかで教官と図書館が連携し、それぞれの専門や学習の状況に応じた情報（コンテンツ）の収集や活用、留意点などについても身につける機会をつくる必要があります。そのためには、全学レベルでの情報リテラシー教育に関する議論のなかで、図書館の役割もきちんと位置づけられなければなりません。

<おわりに>

今回の「授業支援」の取り組みは、これまでの図書館サービスの殻を破る画期的なものであったと思われる。理由のひとつは、図書館の業務を行う上で、これほど主体的かつ直接的に「授業」を意識したことは、これまでにはほとんど無かったからです。多くの大学図書館における蔵書構成やカウンターサービスなどの実態をみれば、学習の柱である「授業」と連携したものになっているとは言い難いと思われる。学生が授業で出された宿題を調べに来てても図書館には所蔵していないケースはどこの図書館でもよく見られる光景です。「授業と連携した図書館サービス」の重要性が確認され、今後の展開への第一歩として、大変意義があったといえます。

最後に、授業支援スタッフのTA（院生）の一人の感想を紹介しておきたいと思います。

「・・・今回、このような形式での講義は初めての試みということでしたが、図書館スタッフの方々の熱心な準備（資料、リハーサル等）や、学生に対する丁寧な説明が非常に印象的でした・・・」

(*)<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/sogo2000/>

（ひらやま ちゅういち 附属図書館長）

図書館授業支援スタッフ：

川内野祐子、浜崎千雅、中尾康朗
伊波ひとみ、梅尾勝征、浦田博臣
牛島直史、森下和博、浜崎修一

ハーン先生の熊本

Alan Rosen

ラフカディオ・ハーンが第五等学校の外国人教師として熊本に来たのは、1891年でした。島根県の松江市から来ました。松江では彼の今までの人生の中で一番幸せな一年間を過ごしたと言えるでしょう。すべては新鮮で魅力的で珍しくて夢の世界。古いお寺やおもしろい習慣、下駄の音、要するに昔の日本でいっぱいでした。天気と寒さだけが気に入りませんでした、それを避けるために暖かい熊本に引越しました。

熊本は松江に比べれば暖かかったのですが町の外見に一目でがっかりしました。西南戦争のせいで熊本城も、たくさんの屋敷や店や寺も焼けてしまいましたので、松江に比べれば殺風景に見えました。それに「ここでは、もちろん湖がないから宍道湖みたいな美しい風景はない。しかし天気のいい日は大きな火山阿蘇山からけむりが上がるのが見えます。」また鶴屋百貨店の隣の土地(現在富士銀行)にあった家を借りましたが庭が狭くて家賃が高かったです。なんと月に十一円でした(松江の家のほぼ三倍!)。ハーンによると熊本は「モダンすぎる」。そして「大きすぎるし半分西洋化され、軍人だらけの醜い駐屯地だ」と友達への手紙に書きました。

ハーンが熊本に来て一番恋しかったのは松江の日本らしさでした。「熊本には檜の神棚を売っている店がないし、玄関先にしめなわを飾っている家など見たこともない。」そしてまた、「美しい漆物とか焼き物とか銅器がない。芸術(絵)もない、掛け物もない、骨董屋もない。」実際にはもちろんありましたがハーンは見つけなかったのでしょうか。

しかし熊本の自然はすきでした。阿蘇山が印象的でしたがハーンは国内旅券がないかぎり阿蘇山まで行けませんでした。龍田山からのすばらしい眺めも作品に描かれていますが、水前寺公園は人工的で不自然だと思いました。熊本には松江では見かけなかった動物もいました。それはヤギでした。妻のセツはガチョウとブタも珍しがっていました。特産品では熊本の絹が美しくて安価なのでセツのためにたくさん買いました。

ハーンは熊本にはおいしいパンや肉や酒が豊富にあるので喜びました。そのお陰で熊本に来て間もなく体重も増え丈夫になりました。健康でなければ良いものは書けないと常々言っているハーンにとって、健康はなによりも大切なことでした。

気候に関しては、冬は「我慢できないほど寒い」けれど、7月と8月の暑さは大好きでした。地中海の小島に生まれた彼には夏の蒸し暑さが合っていたようです。

結局ハーンは熊本が嫌いだったというよりは、大きな都市や近代化を嫌っていたのです。彼は滞在したことがあるシンシナティ、ニューオリンズ、ニューヨークなどの大都市はみな気に入らなくなってしまいました。東京や金沢みたいな大都市に比べれば熊本はまだましだとハーンが言っていました。たしかに熊本はハーンの好みの街ではありませんでしたが、彼の健康と執筆の面から見れば、熊本から彼が得たものは決して少ないとは言えません。

(アラン ローゼン 教育学部外国人教師)

電動集密書架の第二期工事が終了しました

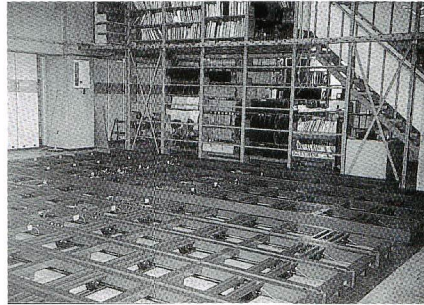
大学教育研究センター改修工事に伴い、研究室から約10万冊の図書が返却されました。中央館では図書の収容能力を向上させるため、平成11年度に行った第一期の電動集密書架設営工事に続き、第

二期工事を平成13年2～3月にかけて行いました。

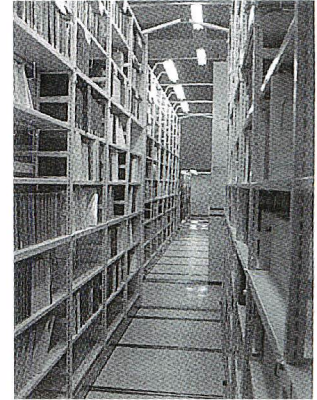
電動集密書架には国内和雑誌、大学紀要類及び研究室から返却された図書（和・洋）の一部を配架しています。



固定書架を撤去した後



レール、台車の取付け



図書・雑誌を収蔵した後



電動集密書架完成直後



図書の整理（踏台使用）



上段書架の整理（踏台使用）

平成12年度購入 研究用図書

図書館の研究用資料の充実を図るために、例年、学内共通経費により共同利用性の高い学術資料の整備を進めています。平成12年度は以下のコレクションを購入しました。

1. 文部時報 第Ⅰ期：第1号～第524号（大正9.5.1～昭和10.8.21）全30巻、第Ⅱ期：第525号～第823号（昭和10.9.1～昭和20.3.10）全50巻
中央館2階研究図書室に配架

2. オイラー全集(Leonhard Euler : Opera Omnia)
全73巻
中央館2階研究図書室に配架

3. 新機能性分子創製のための化学及び生物学体系
全41巻
薬学部分館に配架

本学教官寄贈図書 (平成13年1月～3月)

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

◆古田弘子助教授(教育学部)

発達途上国の聴覚障害児早期教育への援助に関する研究：わが国のスリ・ランカに対する援助を中心に / 古田弘子著. -- 東京：風間書房，2001.2.

中央館・教官著書コーナー : 378.2/F.94

◆岩岡中正教授(法学部)

俳誌「阿蘇」合同句集：創刊八百号記念 / 「阿蘇」合同句集刊行委員会編. -- 熊本市：阿蘇発行所，2000.11.

中央館・教官著書コーナー : 911.3/H.15

最近の図書館の動き (平成13年1月～3月)

● 開館時間変更 (中央館)

利用者からのご要望にお応えして、平成13年4月から春季休業期間中(4/1～4/10)であっても、平日は21時まで夜間開館を実施します。それにあわせて、例年利用者が減少する3月後半は、9時から17時まで開館となりました。なお、土日、休日開館については、例年どおり3月中は実施しましたが、春季休業期間は閉館になります。(4/1・7・8) 詳しくは、図書館ホームページ上の開館カレンダーなどで、ご確認ください。

● 書庫の閉鎖

中央館では、大教センター改修工事によって生じた大量の返却図書および雑誌に対応するため、電動集密書架の取付工事を実施しています。そのため、2月下旬から4月上旬まで、書庫を一時閉鎖します。たいへんご迷惑をおかけすることになりますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

● 新着DVD

アカデミー賞受賞作品をはじめ、スタンリー・キューブリック (Stanley Kubrick) やヴィム・ヴェンダース (Vim Wenders) など、巨匠たちの作品を中心に、ちょっと渋めの名作を60作品取り揃えました。館内利用になりますが、どうぞ、ご利用ください。

● 一般市民の“図書館利用証”更新

一般社会人の方々へ、館内にある一般資料の閲覧・貸出・複写サービスを実施しています。貸出を希望される方は、身分証と住所確認のための本人宛郵便物を添えて申請していただくと、図書館利用証を発行いたします。有効期限は登録年度内(3/31まで)です。

引き続き、利用を希望される場合は、“図書館利用証”を添えて、更新手続きをお願いいたします。更新手続きは、4月より受け付けます。

日誌 (平成13年1月～3月)

1.24-25 国立大学附属図書館事務部長会議 (徳島大学)
1.25 第38回日本薬学図書館協議会九州地区会議 (第一薬科大学)
2.26-4.6 地下書庫一時閉鎖 / 電動集密移動書架設置工事 (中央館)

3.13 平成12年度第5回図書館運営委員会
3.23 熊本県大学図書館協議会講演会(くすの木会館)
4.3 平成12年度第3回薬学部分館図書委員会

平成13年度附属図書館運営委員

(平成13年4月1日現在)

工学部 館長 平山 忠一
医学部 分館長 小川 尚
薬学部 分館長 原野 一誠
文学部 助教授 里見 繁美
教育学部 助教授 堀畑 正臣
法学部 教授 松原 弘信

理学部 教授 安仁屋 勝
工学部 教授 河原 正泰
大学院自然科学研究科 助教授 伊藤 重剛
附属病院 助教授 岡嶋 研二
大学教育研究センター 助教授 中山 玄三
医療技術短期大学部 教授 安倍 紀一郎

人事異動

■異動

(平成13年1月1日付け)

情報管理課総務係長

竹林克巳（総務部総務課大学院室管理係主任）

(平成13年4月1日付け)

医学部総務係主任

佐藤公則（情報管理課総務係主任）

情報管理課図書情報係長

浦田博臣（情報サービス課電子サービス係長）

情報サービス課資料サービス係長

永村典子（情報サービス課薬学情報サービス係長）

情報サービス課電子サービス係長

成田和則（情報管理課図書情報係長）

情報サービス課薬学情報サービス係長

北野典子（情報サービス課資料サービス係長）

情報管理課図書情報係員

牛島直史（情報サービス課相互利用サービス係員）

情報サービス課電子サービス係員

中尾康朗（情報管理課電子情報係員）

情報サービス課相互利用サービス係員

伊波ひとみ（情報サービス課電子サービス係員）

情報管理課総務係事務補佐員

園田雅子（情報管理課図書情報係事務補佐員）

情報管理課図書情報係事務補佐員

市原慶子（情報サービス課資料サービス係事務補佐員）

情報管理課雑誌情報係事務補佐員

城倫子（情報サービス課資料サービス係事務補佐員）

情報サービス課資料サービス係事務補佐員

吉村貴子（情報サービス課相互利用サービス係事務補佐員）

情報サービス課資料サービス係事務補佐員

樋口文子（情報管理課雑誌情報係事務補佐員）

情報サービス課相互利用サービス係事務補佐員

梅原慶子（情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員）

情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員

北野香代子（情報管理課図書情報係事務補佐員）

■採用

(平成13年4月16日付け)

情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員

吉田千恵

■退職

(平成12年12月31日付け)

情報管理課総務係長

西勇雄

(平成13年3月31日付け)

情報管理課総務係事務補佐員

中本幸子

情報サービス課医学情報サービス係事務補佐員

市花恵津子

委員会報告（平成13年1月～3月）

附属図書館運営委員会

■平成12年度第5回(3月13日)

[協議事項]

(1)平成14年度概算要求

(2)「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」の施行に係る大学附属図書館等の保有する資料の取り扱いについて

(3)平成12年度事業計画の進捗状況及び平成13年度事業計画（案）

(4)大型コレクション等の要求

(5)その他

・Z39.50評価システムの利用

[報告事項]

(1)分館長候補者

(2)附属図書館運営委員会規則の改正

(3)拡大第三常置委員会の審議状況

(4)自己評価委員会委員の選出

(5)平成13年度総合科目の実施

(6)学位論文等の電子化

(7)細川佳代子氏講演会

(8)田中千束氏の図書の寄贈

(9)集密書架の増設及び図書の移動

(10)その他

・図書館業務用電子計算機の一部変更

・田嶋記念大学図書館振興財団の助成金交付

・卒業予定者の未返却図書の督促

中央館増改築検討専門委員会

■平成12年度第1回(平成12年12月27日)

[協議事項]

(1)中央館の増改築計画

薬学部分館図書委員会

■平成12年度第3回(4月3日)

[協議事項]

(1)平成13年度自然科学系図書資料の推薦

(2)平成13年度4年生の24時間利用

(3)日本薬学図書館協議会会費

(4)事務室のセキュリティ対策

[報告事項]

(1)平成12年度薬学部分館事業報告

あなたは“May I help you?”を言えますか！

- 細川佳代子さん講演会「ボランティアの私」を開催 -

近年、生涯学習社会の進展に伴い、大学においても地域における生涯学習ニーズへの対応やボランティア活動の推進などが求められるようになってきました。附属図書館では、大学及び大学図書館の地域社会への貢献方策を考えるため、熊本大学生涯学習教育研究センター、熊本県大学図書館協議会（熊本県内の大学と高専の図書館で組織）の3者による共催で、3月23日、くすの木会館において細川佳代子さんを迎えて講演会を開催しました。

細川佳代子さんは細川護熙元首相夫人として知られていますが、現在は知的発達障害をもっている方々のオリンピックである「スペシャルオリンピックス日本」の会長として国際的な規模でボランティア活動を展開されています。

講演では、演題を「ボランティアと私」ではなく、あえて「ボランティアの私」とした胸の内や、障害者へ“May I help you”と積

極的に声をかけることのできるアメリカ人と声をかけられない日本人の違いなど、ボランティア人生で学んだ経験が具体的に語られました。さらにスペシャルオリンピックスの活動を通して経験し

たマスメディアや自治体の対応などへの鋭い指摘もありました。豊富な体験をもとに、私たちが自分にできることを自分の立場で手伝い、自分が成長するというボランティアのありようについて熱心に語られ、参加者の感動を呼びました。

講演会は、地元メディア（ラジオ、新聞

など）の協力も得て広く参加を呼びかけた結果、多くの地域住民の参加があり、講演終了後も熱心な質疑応答が続きました。また、大学でこのような機会を作られたことに対する感謝の言葉も聞かれました。



編集後記：山、八重、しだれ、千原、さて何だかわかりになりますか？ 次に染井吉野とくれば... そう「桜」です。春4月は桜の季節、上記のうち千原（チハラ）桜はあまり聞き慣れないかもしれませんが、これは熊本市千原台に原樹があったことから名付けられた桜で熊本の名桜と言われています。熊本の桜と言えばもう一つ（？）細川家の家紋に「桜」があるのはご存知でしょうか？ 九曜の紋は有名ですが桜も家紋の一つとされています。（「綿考輯録」巻二に記述あり）「綿考輯録」（メンコウシュウロク）は細川氏の家譜で、活字になった刊本も出版されていますので読むことができます。春といえば新入生対象のガイダンス、今年も4/12-4/27に行います。昨年好評でした貴重書庫への案内もあります。どうぞ参加下さい。

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）*

26巻2号 平成13年(2001年)4月発行

発行所 熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

TEL:096 (342) 2273 FAX:096 (342) 2210

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogenv/>

編集 浜崎修一、梅尾勝征、甲斐重武、

永村典子、川内野祐子、浜崎千雅

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。